

今に受け継ぐ“伊達の気概”



トークセッション第1部「今に受け継ぐ“伊達の気概”」では、政宗公の先見性や革新性を現代に受け継ぐ賛同企業・団体の皆さんが登壇。歴史を絡めながら、現在の仙台に生きる政宗公のまちづくりの功績や、ビジネスに通じる“伊達の気概”について語った。



三井不動産株式会社
東北支店長 寺島 道人さん

仙台のまちを育て発展させた政宗公

現代でも、まちづくりで大切なことは同じです。二つのポイントがあり、一つ目は日本全体が少子高齢化で生産年齢人口が減ること。都市の発展には将来の担い手となる若年層が住み続けたいと思え

る魅力的なまちづくりが必要で、新たに産業を育て、また企業誘致をして、若年層に魅力ある仕事を増やしていくことが求められます。これは政宗公が行った事業と重なります。二つめは世界へ出るということ。仙台には大学の優れた技術や研究開発、企業の優れた製品、歴史と文化のコンテンツ、防災の学びなど、世

界の人たちを引き付けるものがあります。慶長遣欧使節は世界へ開こうとする志の偉大な先例でした。政宗公はまちづくりの祖で偉大な武将です。仙台のまちの未来をリードする精神・志のよりどころである政宗公の騎馬像が帰還を、皆さんとお祝いで大きく変えたいと思っています。

政宗公のまちづくりに見習うところが多く、農林水産業、水産、陸運に優れた場所を選び、その上で町割りして開拓し、人口と農地を増やしました。できた農水産物は、整えたインフラを使って藩の外へ売り、さらに経済を活性化させて街を発展させました。瑞巖寺や陸奥国分寺薬師堂、大崎八幡宮の建立などから建築技術を育てたり、伝統工芸品の振興を通じ工芸、文化の水準を高めました。



三井不動産が手掛ける、集客力のある商業施設



一般社団法人 宮城県建設業協会
会長 千葉 嘉春さん

大災害を乗り越えた復興整備に共感

復興が進む仙台市東部沿岸。海岸線に沿って伸びる貞山運河が見える

います。地方には魅力的な観光資源もあり、インバウンドを呼び込むためにも高速道路のネットワークの整備は、これからの東北地方の発展に必要なインフラです。物流、交通の利便性向上、生活環境の質の向上に、これからも取り組んでいきたいと思っています。

建設業に携わる者から見て、まずお城の位置、仙台平野全体を見渡せる位置に築いた点に感嘆します。そして木材や穀物を運送できる貞山運河も、政宗公が治水の名手・川村孫兵衛を招いて着工しました。石巻では北上川の改修を行い、流域の実石高を増やしていきました。さらに石巻港を造り、米を江戸まで運びました。また、広瀬川から取水した四ツ谷用水が、生活用水として当時の人々の生活を支えたこともよく知られています。大型機械もない時代にこうした大規模な工事を人力で行ったことは驚きです。交通の利便性と物流で領民の暮らしを豊かにした先

見の明。我々も見習わなければと思います。震災以後、建設業が取り組んできた復興整備はほぼ完了に近づいています。政宗公の時代にも大きな地震があつて、お互いに大災害を乗り越えながらやってきたと共感するものがあります。2021年12月には復興道路「三陸沿岸道路」が完成。県内各地には新規の企業立地が多数あり、新たな雇用も生まれて



復興が進む仙台市東部沿岸。海岸線に沿って伸びる貞山運河が見える



株式会社サゼン
副社長 御銅師 田中 善さん

銅を通じ地元の良いものを広めたい

銅の持つ伝導する力 現代に生かす

最近では「伊達銅月」という政宗公の三日月の前立てをモチーフにしたペーパーナイフを作りました。この仙臺銅壺シリーズを通して、地元にある良いものを、知られざる特長のあるものを、銅の伝導する力で広めたいと熱い思いを持っています。

現在、ガス器具、風呂、キッチンなど、先祖は銅を使って飾り金具などを作る「御銅師」の腕を買われて政宗公に招かれました。銅は熱や電気の伝導率が非常に高い金属です。我々の祖先は、この伝導する力を利用して、国づくり、まちづくりに生かしてきました。お正月の初詣など、寺社にお詣りされる方が多いと思いますが、その祈願の対象となる大仏さまや鏡は実は銅製のもので、そうだったものを銅師という職人が手掛けてきました。熱だけでなく、情報や人の願いも伝えるとされる銅は、まちをつくるもの。政宗公

器、最近では「伊達銅月」という政宗公の三日月の前立てをモチーフにしたペーパーナイフを作りました。この仙臺銅壺シリーズを通して、地元にある良いものを、知られざる特長のあるものを、銅の伝導する力で広めたいと熱い思いを持っています。



仙臺銅壺シリーズのせり鍋



有限会社ふじや千舟
代表取締役社長 赤間 博文さん

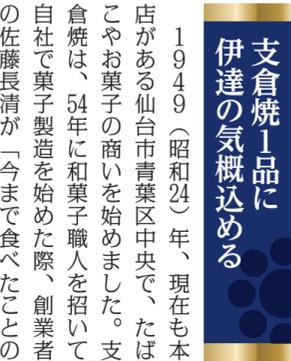
支倉焼1品に 伊達の気概込める

1949（昭和24）年、現在も本店がある仙台市青葉区中央で、たばこやお菓子の商いを始めました。支倉焼は、54年に和菓子職人を招いて自社で菓子製造を始めた際、創業者の佐藤長清が「今まで食べたことのないお菓子を作りたい、売りたい」と考え、洋菓子職人も招き開発を始め、4年ほどかけて完成させました。生地はクッキー生地、中はクルミ入りの白あんという和洋織りなずお菓子となっており、誕生当時、歴史好きだった創業者が、東西交流のため奔走した支倉常長公の偉業に思いを馳せ、お名前を頂戴し支倉焼と命名させていただきました。

ふじや千舟のお菓子は支倉焼1品のみで、その変わらない味を守るために、実はお客さまの見えないところで日々変えております。いろいろなテストもしておりますが、陰の苦労はお見せせず一歩引いた思いの美学を大切に、それが弊社の考える「伊達の粋」ではないかと思っています。また、1品のみにとこだわると

いう気概、こちらも60年間ずっと持ち続けてきました。支倉焼をどのようにご提供していったらお客さまにご満足いただけるのか、また、作っている社員、仙台・宮城にどうすれば貢献できるのか、その部分にも伊達の気概を持ち、これからも商いを続けてまいります。

支倉焼を売り出した当時のふじや千舟本店



支倉焼を売り出した当時のふじや千舟本店

想像してみよう、このまちの未来を
百年後の仙台には、どんな景色が広がっているだろう。政宗公が描いた、豊かで平和なまちが続いているだろうか。私たちが地域建設業の仕事は、ものづくりを通じて安全・安心で快適な暮らしを支えること。そして、夢と希望に満ちた地域を創り守ること。これからも変わらぬ思いを胸に地域と共に、未来のために歩み続けます。

愉しい時間の真ん中に。

1963年、支倉焼1品だけを作ると決めてから50年以上にわたり日々、丁寧に作り続けてきました。素材にこだわり1つ1つ焼き上げるそのお菓子が、皆さまの笑顔のひとつに添えていただけるよう、心を込めて作ってまいります。優しい甘さのあんとしっとりとした生地からなる“和洋菓子”の美味しさをぜひお楽しみください。

ふじや千舟
0120-12-4245
【本店】仙台市青葉区中央四丁目7-18 (SS30東向かい)
【本社工場】仙台市青葉区愛子三丁目14-25

街は人とともに。

おかげさまで三井不動産東北支店は開設50周年を迎えます。

都市と自然が豊かな杜の都、仙台。東日本大震災を乗り越え東北のハブとして発展するこの街とともに、わたしたちは、暮らしを豊かにするお手伝いを進めてまいりました。これからも街づくりを通して持続可能な社会の実現へ。みなさまとともに。三井不動産の「&」の街づくりは続きます。

三井不動産
MITSUI FUDOSAN

伊達銅月 ペーパーナイフ

残りわずか

限定50個 33,000円税込

「おかえりなさい、政宗公〜伊達の気概〜ここにあり〜」の企画を通じて河北新報社とサゼンが共同で開発した「伊達銅月 ペーパーナイフ」。政宗公の前立てをモチーフにした3色展開のペーパーナイフは大切な方への贈り物や記念品にぴったり。限定生産のため、残りわずか。お早めにお求めください。

[三種の輝き]	[変化の美]
素 銅そのものの輝き (写真左)	銅は使い込むうちに風合いが増すため、あえて特別なお手入れは必要ありません。経年変化をお楽しみください。
炎 炎であぶり、赤みを出しています (写真中央)	
炎染 硫黄で黒く染めてから炎を施した色合い (写真右)	

創業慶長元年
サゼン
SINCE 1596

WEBでのお買い求めは
47club.com
47club.com

店頭でのお買い求めは
サゼン 卸町リフォーム館
一番町本店